

「健康日本21：歯の健康」 中間評価に関わる資料

1. う蝕予防について
2. 歯周病予防について
3. 歯の喪失防止について

日本歯科医師会 常務理事 池主憲夫

1

1. う蝕予防について

- う蝕減少の要因は様々考えられるが、フッ化物配合歯磨剤の普及によるところが大きいと考えられる。
- しかしすでにフッ化物配合歯磨剤の市場占有率は90%以上なので、さらにう蝕を減少させるためにはフッ化物洗口の普及が必要。
- 都道府県では約3分の1(16自治体)でフッ化物洗口に関する目標が設定されている。
- 地域の実情に応じて、都道府県健康増進計画にフッ化物洗口の目標値を新たに設定するなどの工夫が必要である。

2

2. 歯周病予防について

- 歯周病予防には、歯間部清掃具の使用などのセルフケアと歯科検診、歯石除去などのプロフェッショナルケアの両方が必要である。
- セルフケア
歯間部清掃具の使用率は目標値50%に達していないので、様々な面からアプローチを図る必要がある。
- プロフェッショナルケア
歯科検診、歯石除去は目標値を達成している。しかし、目標項目の実態を示すデータが(データ自体は意味があるものの)目標項目を示すデータとしてみた場合、適切とは言い難く、実態を正確に示すことが必要。
- 歯周病予防には、40歳以上の定期的歯科健診・保健指導・歯石除去のさらなる普及が求められる。

[注]歯科検診と歯石除去は「歯の喪失予防」に位置づけられているが、歯周疾患予防の意味合いが強いため、ここでは歯周病予防の対策として位置づけた

3

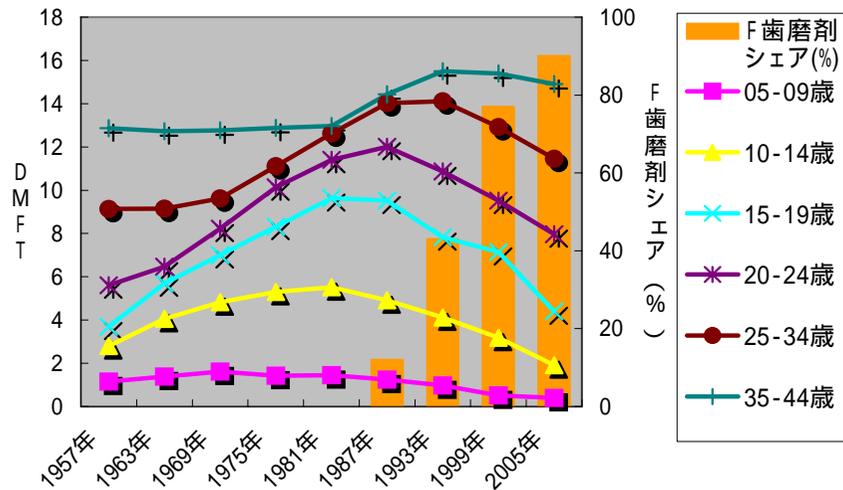
3. 歯の喪失防止について

- 歯の喪失状況の改善は、歯科医療の充実によるところが大きいと考えられる。
- しかし、高齢者の人口は増えているので、歯の残っていない高齢者の数は、見かけほど少なくなっているわけではない。
- 目標値に示される数値は、単に歯数だけでなく、今後は口腔機能・咀嚼機能に着目することが求められ、地域の実情に合わせて、都道府県健康増進計画の目標値の再設定などを行う必要がある

4

う蝕(DMFT)減少の要因は？

F歯磨剤シェアとの関連



都道府県におけるフッ化物洗口に関する目標値の設定状況

- 目標設定あり: 16自治体
- ◆ 数値目標あり: 7自治体
- ◆ 数値目標なし: 9自治体

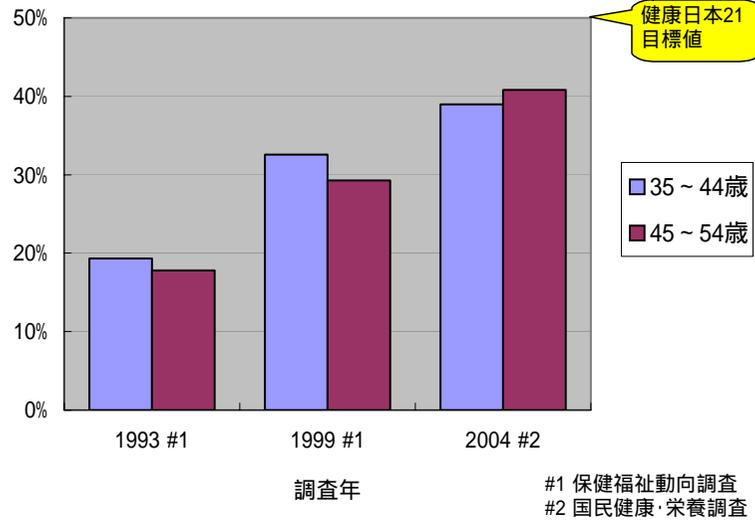
フッ化物洗口を目標値に設定している7自治体(数値目標あり)

自治体名	目標値の内容
群馬県	学齢期 フッ素洗口している人の割合 目標90%以上
新潟県	フッ素洗口を行っている児童、生徒(4~14歳) 28% 40%
静岡県	フッ素洗口法実施施設率20%(小学校のみ)
愛知県	集団フッ化物洗口を実施している小学校の増加(H10年-2校 H22年-200校以上)
和歌山県	学齢期におけるフッ化物配合歯みがき剤、洗口剤使用者の割合90%以上
高知県	保育園・幼稚園でのフッ素洗口の実施割合 目標25%以上
宮崎県	集団でフッ素洗口を実施している市町村を増やす 全市町村 集団でフッ素洗口を実施している施設の数を増やす 100施設

フッ化物洗口を目標値に設定している9自治体(数値目標なし)

自治体名	目標値の内容
山形県	関係者の理解を得てフッ素洗口を実施する保健所・幼稚園・小学校・中学校の増加
埼玉県	小・中学校のフッ化物洗口の普及・拡大 実施施設の増加
富山県	フッ素洗口を実施している学校等施設の増加
山梨県	フッ素洗口をしている人の増加
岐阜県	フッ化物洗口を実施する学校等施設の増加 23施設 増加(現状値は平成13年。目標値は平成22年)
広島県	学齢期においてフッ素洗口をしている子どもを増加させる
山口県	保育所、幼稚園でのフッ化物洗口の実施施設 増やす 小中学校等でのフッ化物洗口の実施施設 増やす
愛媛県	フッ化物洗口をする幼児・児童・生徒の割合増やす(平成15年度末で10.3%)
沖縄県	幼稚園、小学校におけるフッ化物洗口の実施の増加(17校 増加)

歯間部清掃具の使用者の割合の推移



歯科検診、歯石除去： 目標項目と実態を示すデータの対応

定期的な歯石除去を受け
る人の増加

定期的な歯科検診の受診
者の増加

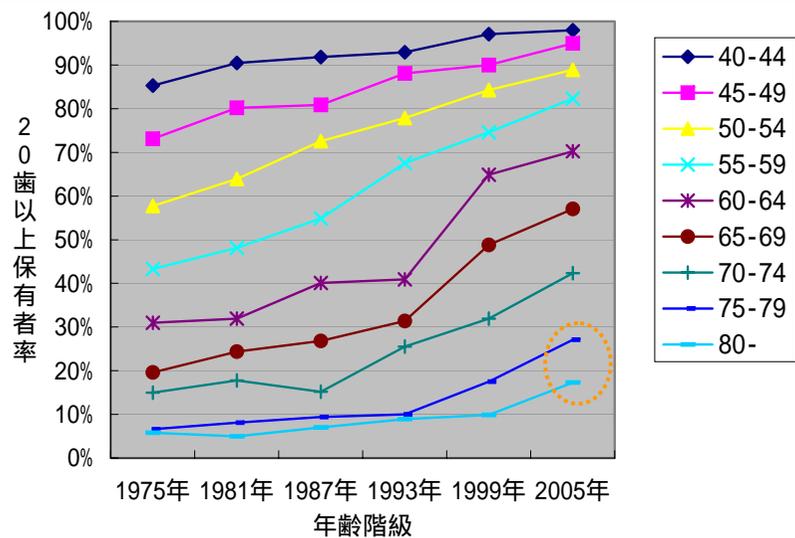


過去1年間に歯石除去や歯
面清掃を受けた人の割合

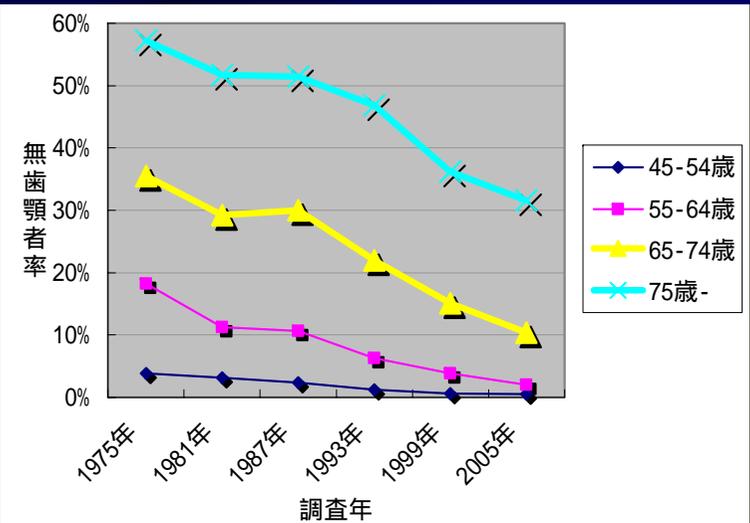
過去1年間に歯科検診を受
けた人の割合

非定期的受診もカウントされるので
過大推計となる

歯の喪失の改善：20歯以上保有者率

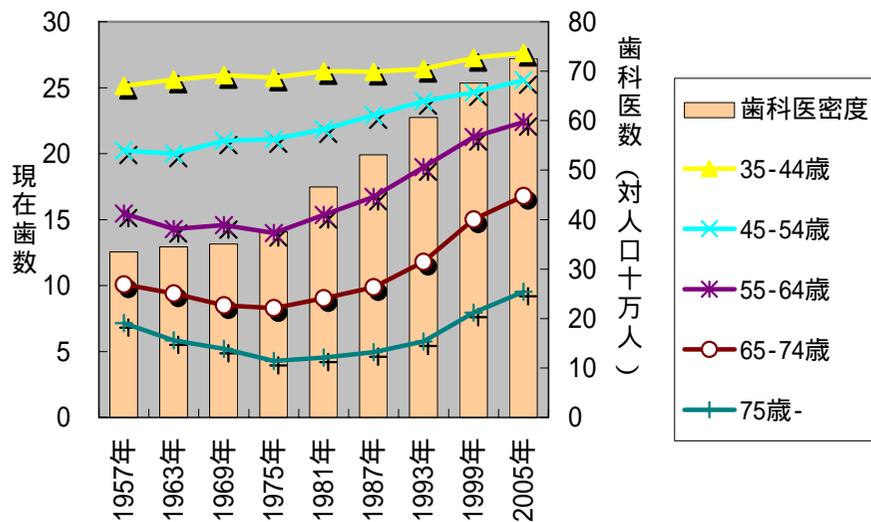


歯の喪失の改善：無歯顎者率

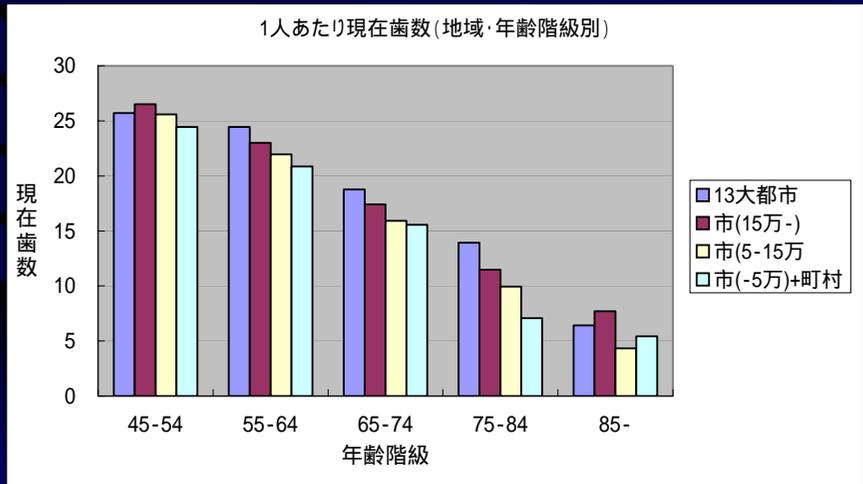


1993年以前は、喪失歯数の分布表から、「28本喪失」を無歯顎者とみなした

一人平均現在歯数の推移と歯科医師密度の関連

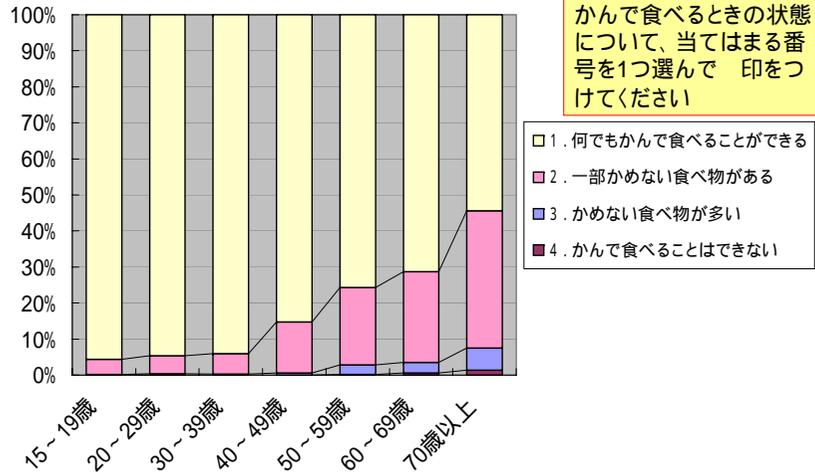


地域差(自治体規模別)について



国民健康・栄養調査(2004)

咀嚼の状況(男女計、年齢階級別)

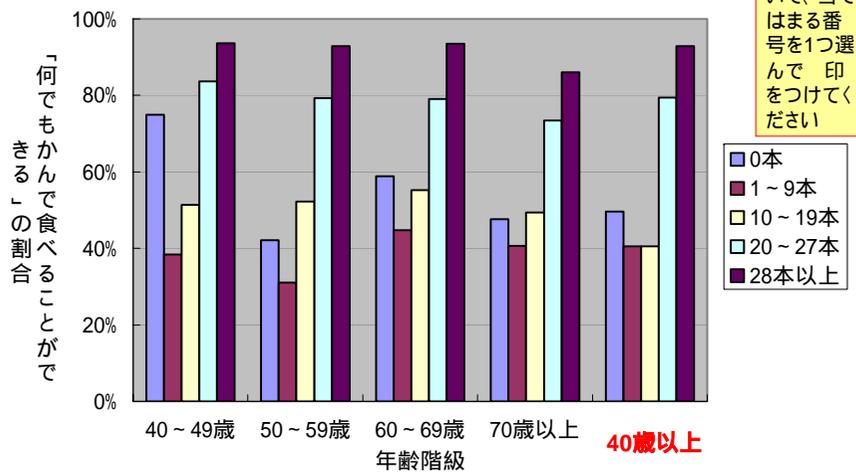


質問:
かんで食べる時の状態について、当てはまる番号を1つ選んで 印をつけてください

- 1. 何でもかんで食べることができる
- 2. 一部かめない食べ物がある
- 3. かめない食べ物が多い
- 4. かんで食べることはできない

国民健康・栄養調査(2004)

「何でもかんで食べることができる」の割合(年齢階級別、男女計)



質問:
かんで食べる時の状態について、当てはまる番号を1つ選んで 印をつけてください

- 0本
- 1～9本
- 10～19本
- 20～27本
- 28本以上